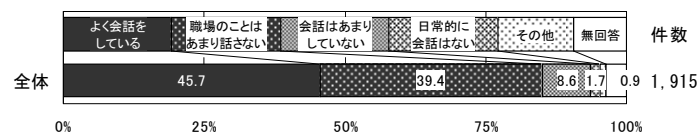


Ⅲ 家族から見た労働者の実態調査調査結果

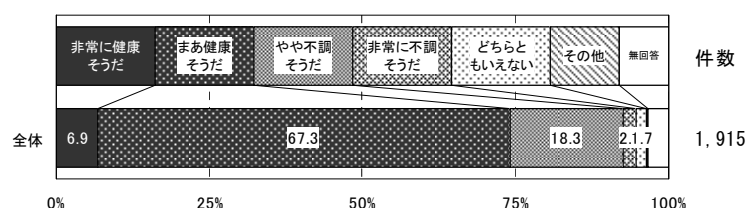
■ 家族からみた労働者の実態調査まとめ

【家族からみた労働者の状況】

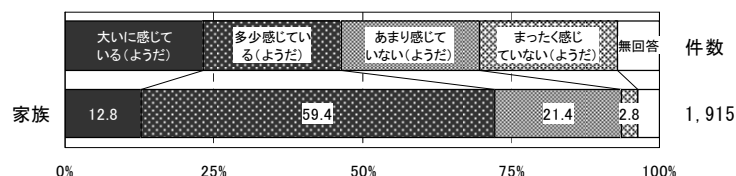
- 労働者との会話の状況は、「職場のことなども含めて、よく会話をしている」が45.7%で最も多く、次いで「職場のことなどはあまり話さない」が39.4%となっている。



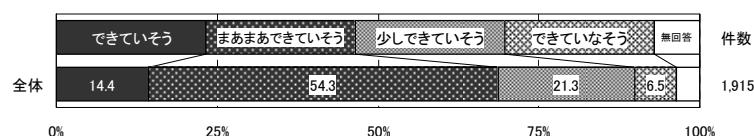
- 家族から見た労働者の健康状況は、「まあ健康そうだな」が67.3%で最も多く、次いで「やや不調そうだな」が18.3%、「非常に健康そうだな」が6.9%となっている。



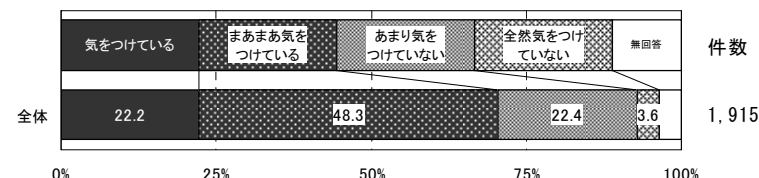
- 家族から見た労働者のストレスの状況としては、「多少感じているようだ」が59.4%で最も多く、次いで「あまり感じていないようだ」が21.4%、「大いに感じているようだ」が12.8%となっている。



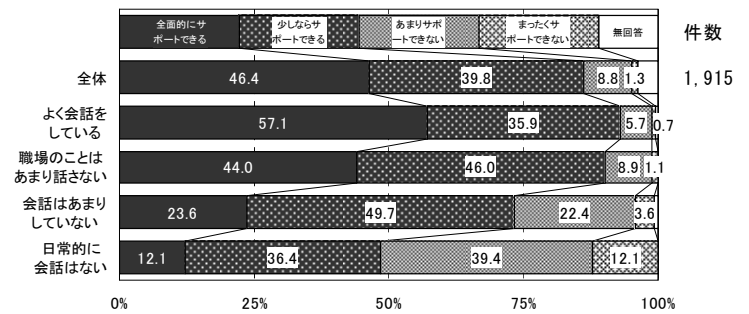
- 家族から見た労働者のストレス解消状況としては、「まあまあできていそう」が54.3%で最も多く、次いで「少しかけていそう」が21.3%となっている。



- 労働者の心の病の前兆については、「まあまあ気をつけている」が48.3%と最も多く、次いで「あまり気をつけていない」が22.4%、「気をつけている」が22.2%となっている。

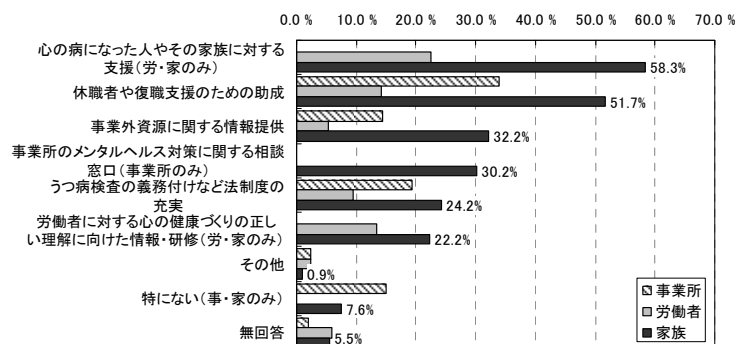
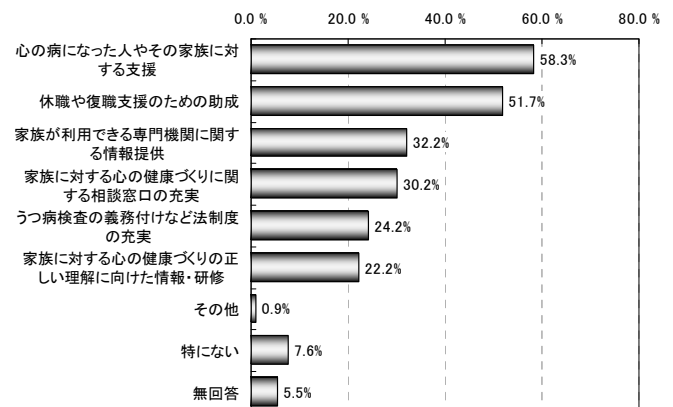
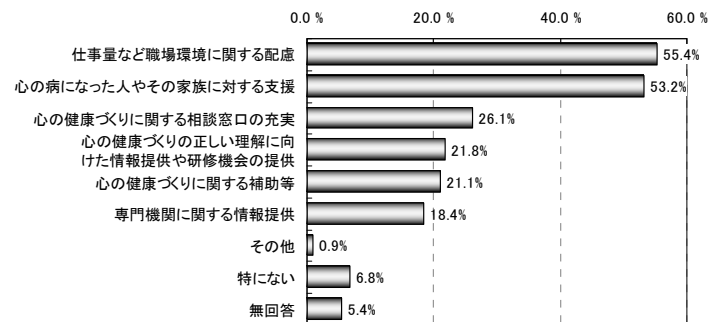


- 労働者が心の病になった時の家族のサポートは、約 86%がサポートできると回答しているが、会話の少ないところほど、サポートできる割合が減少している。



【職場・行政への要望】

- 心の健康づくりに関して、職場に期待・要望することは「仕事量など職場環境に関する配慮」が 55.4%で最も多く、次いで「心の病になった人やその家族に対する支援」が 53.2%、「心の健康づくりに関する相談窓口の充実」が 26.1%となっている。
- 心の健康づくりに関して、行政に期待・要望することは「心の病になった人やその家族に対する支援」が 58.3%と最も多く、次いで「休職や復職支援のための助成」が 51.7%、「家族が利用できる専門機関に関する情報提供」が 32.2%となっている。
- 事業所側、労働者側、家族側の調査結果を比較してみると、家族側から「心の病になった人やその家族に対する支援」、「休職者や復帰支援のための助成」、「事業外資源に関する情報提供」といった要望の割合が事業所側や労働者側と比べて高くなっている。

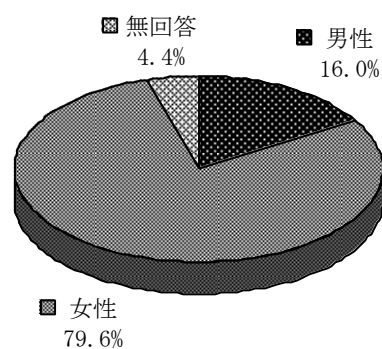


■ 家族からみた労働者の実態調査の詳細

1. 回答者属性

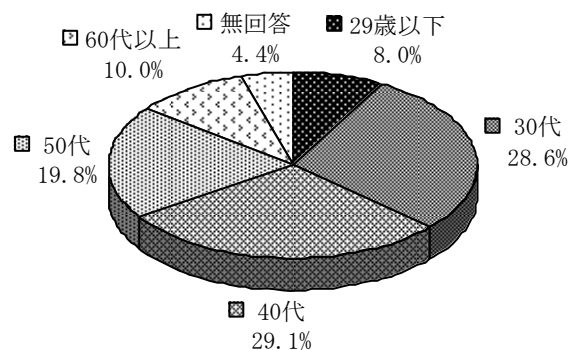
(1) 性別

「女性」が79.6%、「男性」が16.0%となっている。



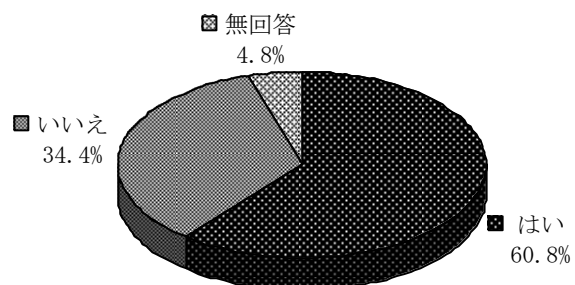
(2) 年齢

「40代」が最も多く29.1%、次いで「30代」が28.6%、「50代」が19.8%となっている。



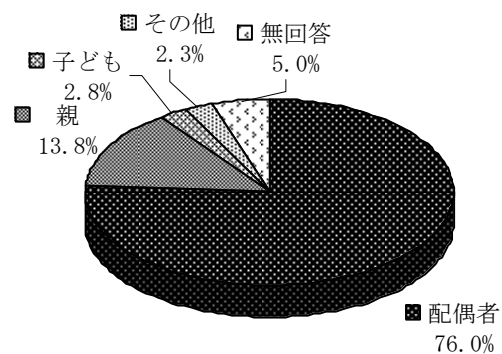
(3) 仕事の有無

「はい」が60.8%、「いいえ」が34.4%となっている。



(4) 労働者との関係

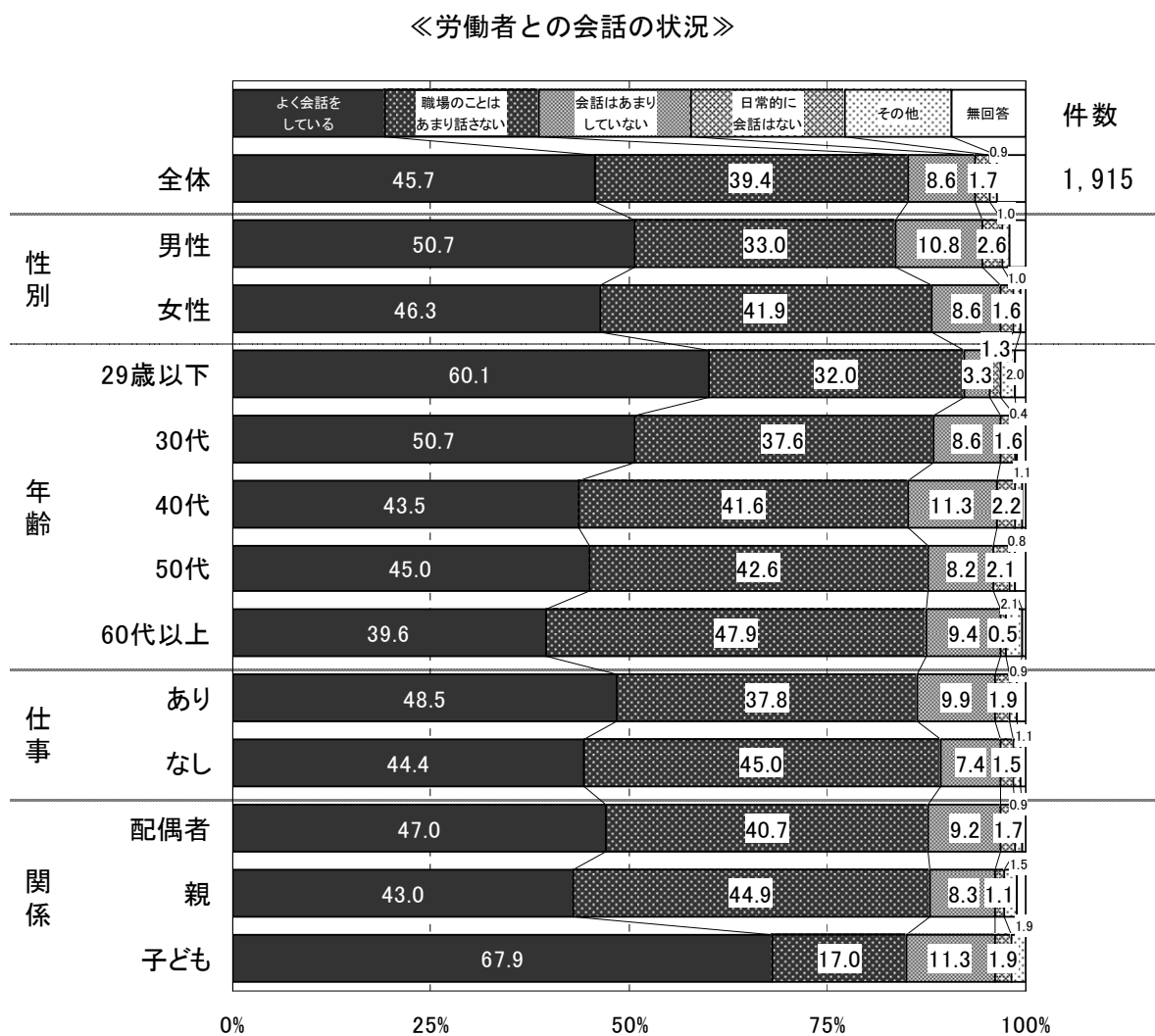
「配偶者」が最も多く76.0%、次いで「親」が13.8%、「子ども」が2.8%となっている。



2. 家族からみた労働者の状況

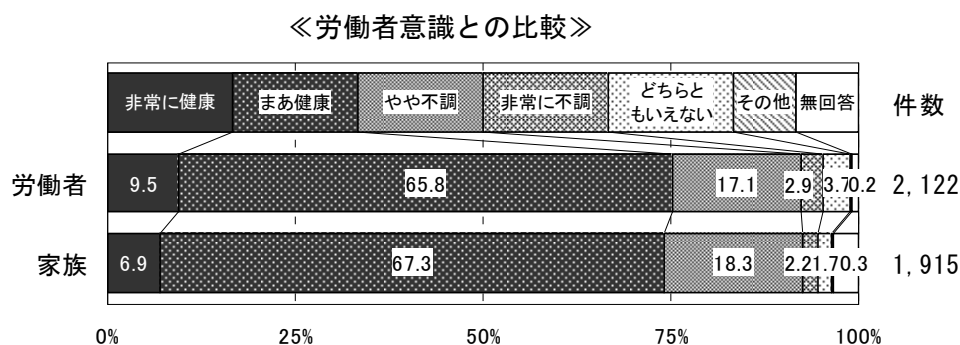
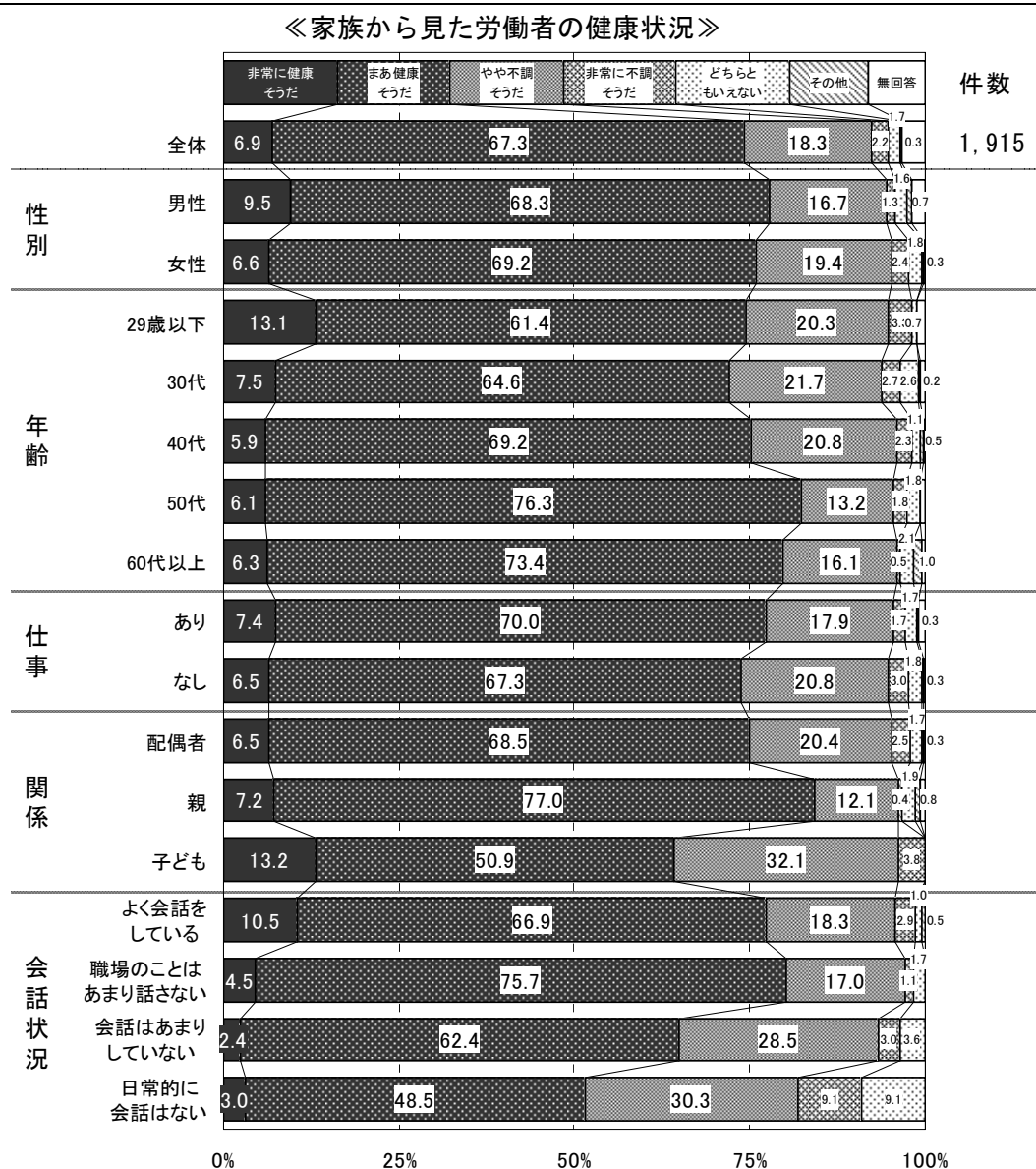
(1) 労働者との会話の状況

- 労働者との会話の状況について最も多いのは「よく会話をしている」で45.7%、次いで「職場のことなどはあまり話さない」が39.4%、「会話はあまりしていない」が8.6%となっている。
- 家族の年齢が高いほど「よく会話している」の割合が減少する傾向にある。



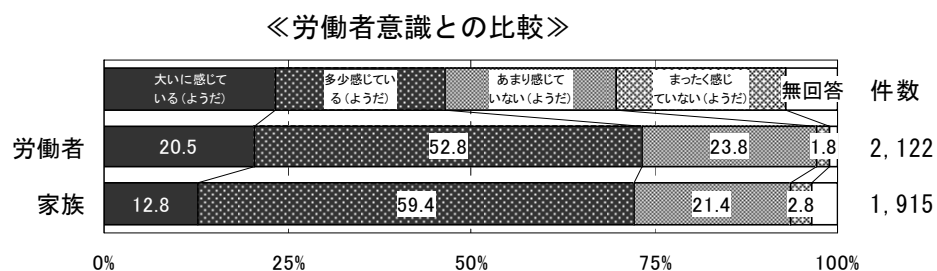
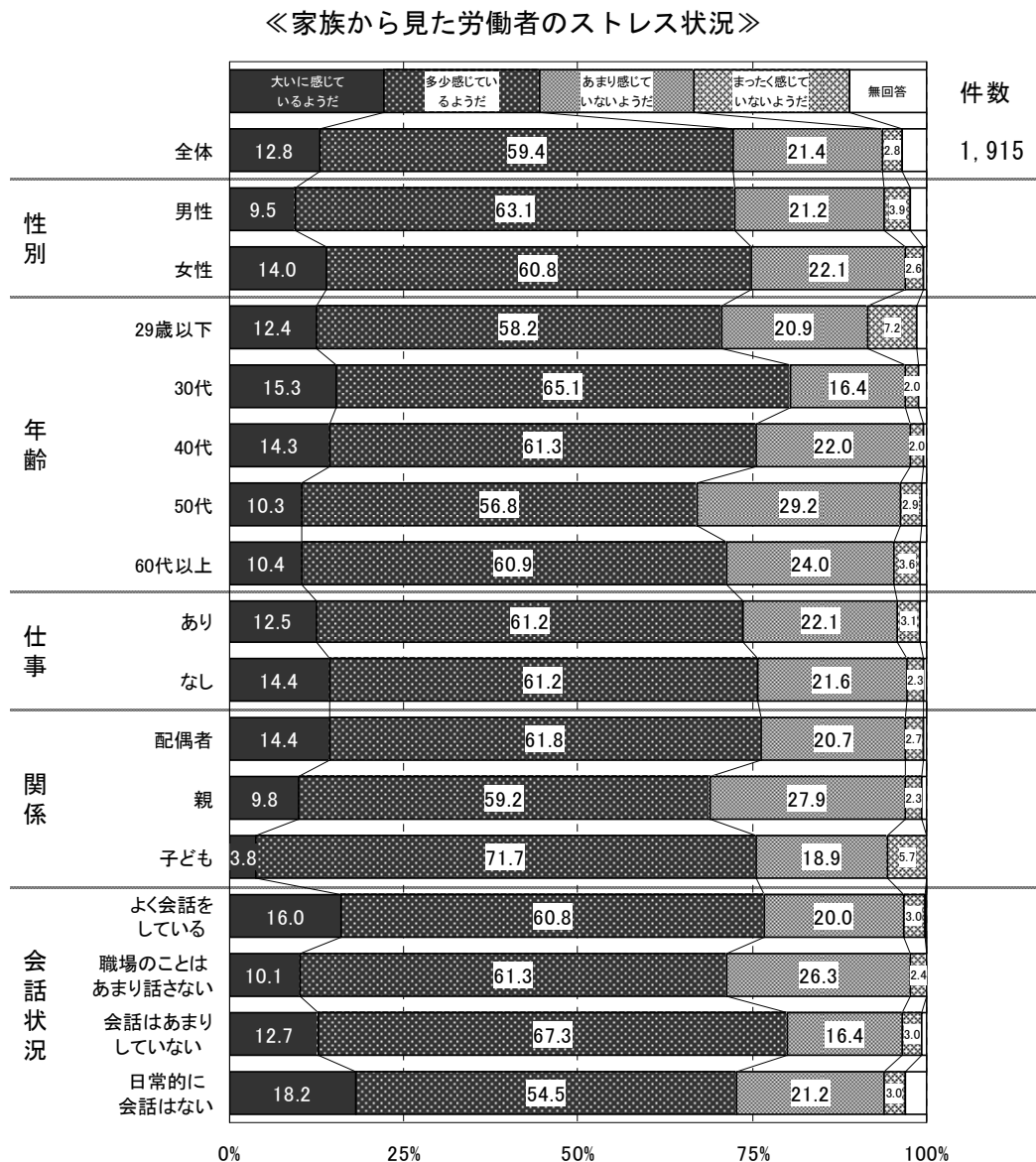
(2) 家族から見た労働者の健康状況

- 家族から見た労働者の健康状況について最も多いのは「まあ健康そう」で 67.3%、次いで「やや不調そう」 18.3%、「非常に健康そう」 6.9%となっている。
- 会話の状況別にみると、会話のあまりない家族ほど、「非常に健康そう」の割合が減少する傾向にある。
- 労働者側と家族側の調査結果を比較してみると、労働者側の方が「非常に健康」とする回答の割合が高くなっている。



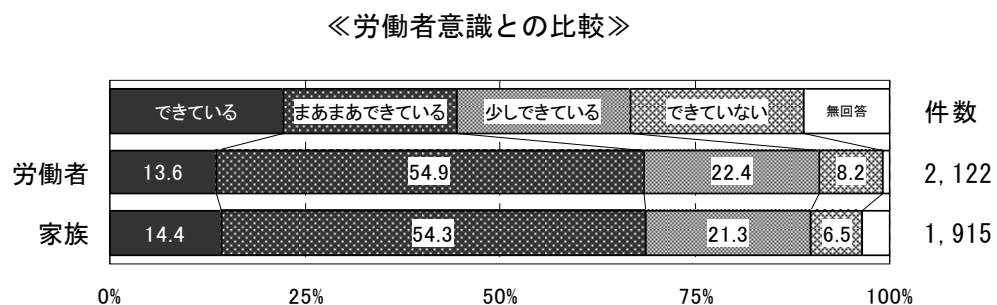
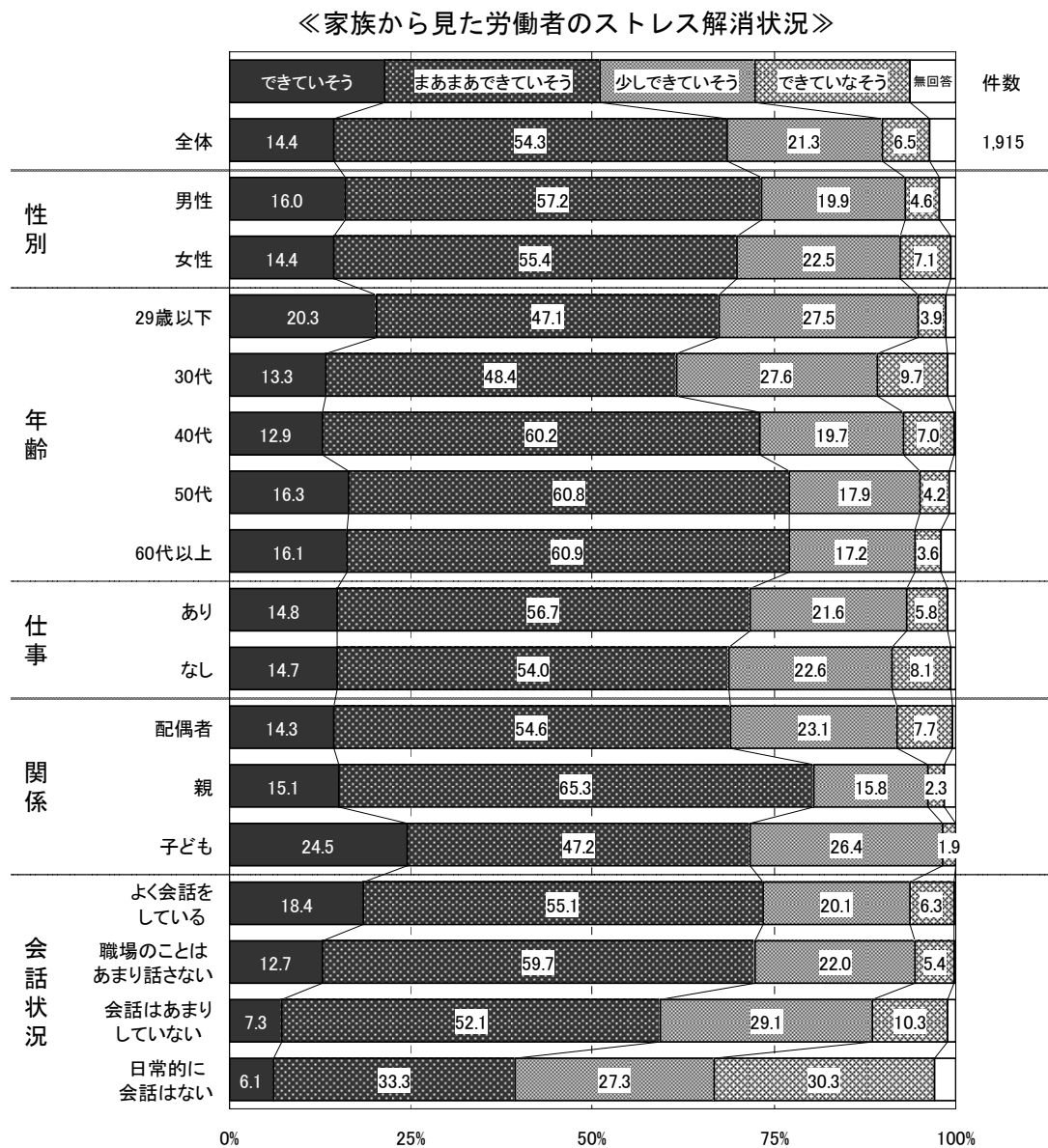
(3) 家族から見た労働者のストレスの状況

- 家族から見た労働者のストレスの状況について最も多いのは「多少感じているようだ」で 59.4%、次いで「あまり感じていないようだ」が 21.4%、「大いに感じているようだ」が 12.8% となっている。
- 労働者側と家族側の調査結果を比較してみると、労働者側は 20.5%がストレスを「大いに感じている」のに対し、家族側は 12.8%がストレスを「大いに感じているようだ」と回答しており、労働者側の方が「大いにストレスを感じている」割合が高くなっている。



(4) 家族から見た労働者のストレス解消状況

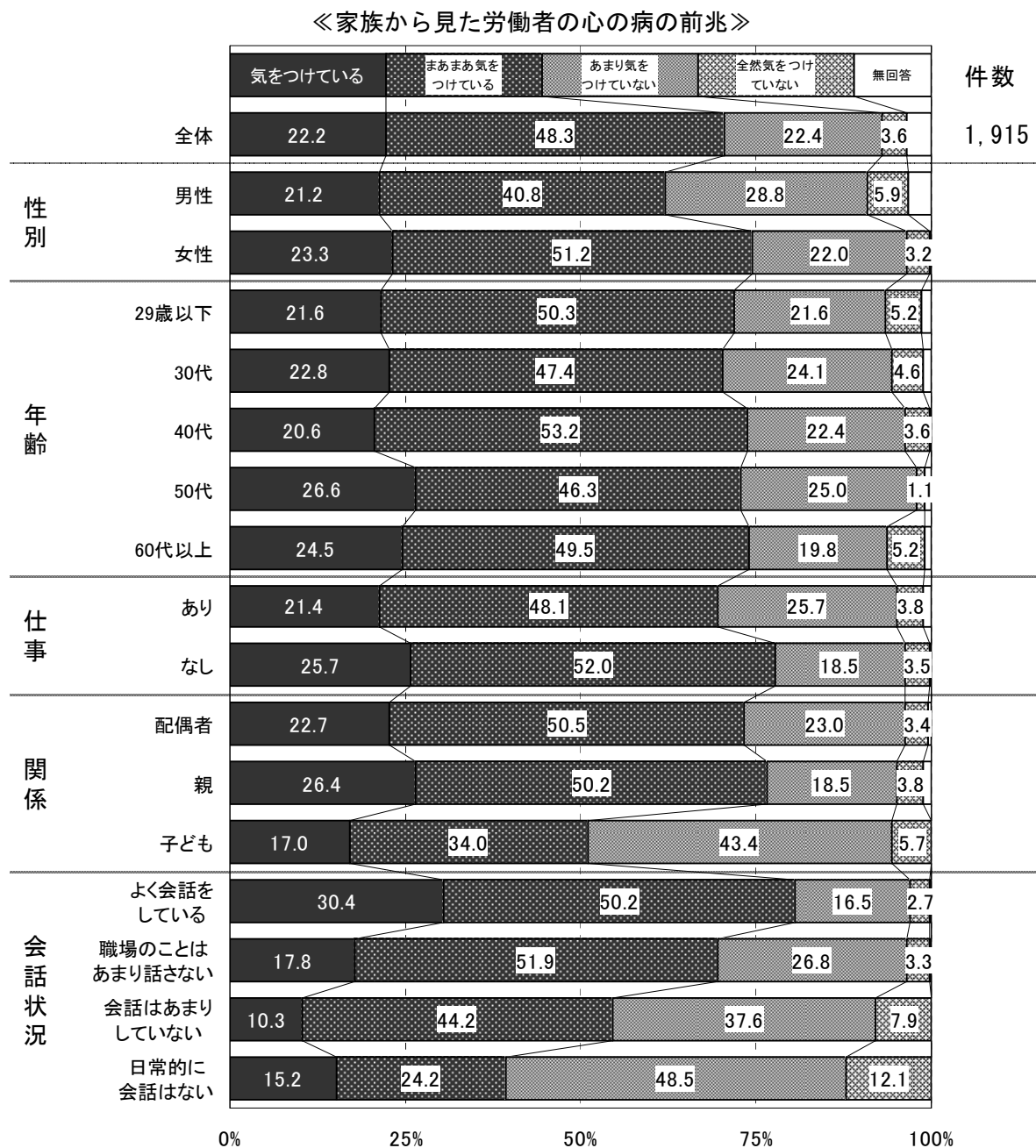
- 家族から見た労働者のストレス解消状況について最も多いのは「まあまあできていそう」で 54.3%、次いで「少しできていそう」が 21.3%、「できていそう」が 14.4%となっている。
- 会話の状況別にみると、会話の少ないところほど、ストレス解消が「できていそう」の割合が減少している。
- 労働者側と家族側の調査結果を比較してみても、大きな差異は見られない。



(5) 家族から見た労働者の心の病の前兆

- 心の病の前兆のチェック項目※について、家族に気をつけているかを聞いたところ、最も多いのが「まあまあ気をつけている」で48.3%、次いで「気をつけている」が22.2%となっている。
- 会話の状況別にみると、会話の少ないところほど、心の病の前兆に気をつけている（次いで「気をつけている」と「まあまあ気をつけている」の合計）割合が低い。

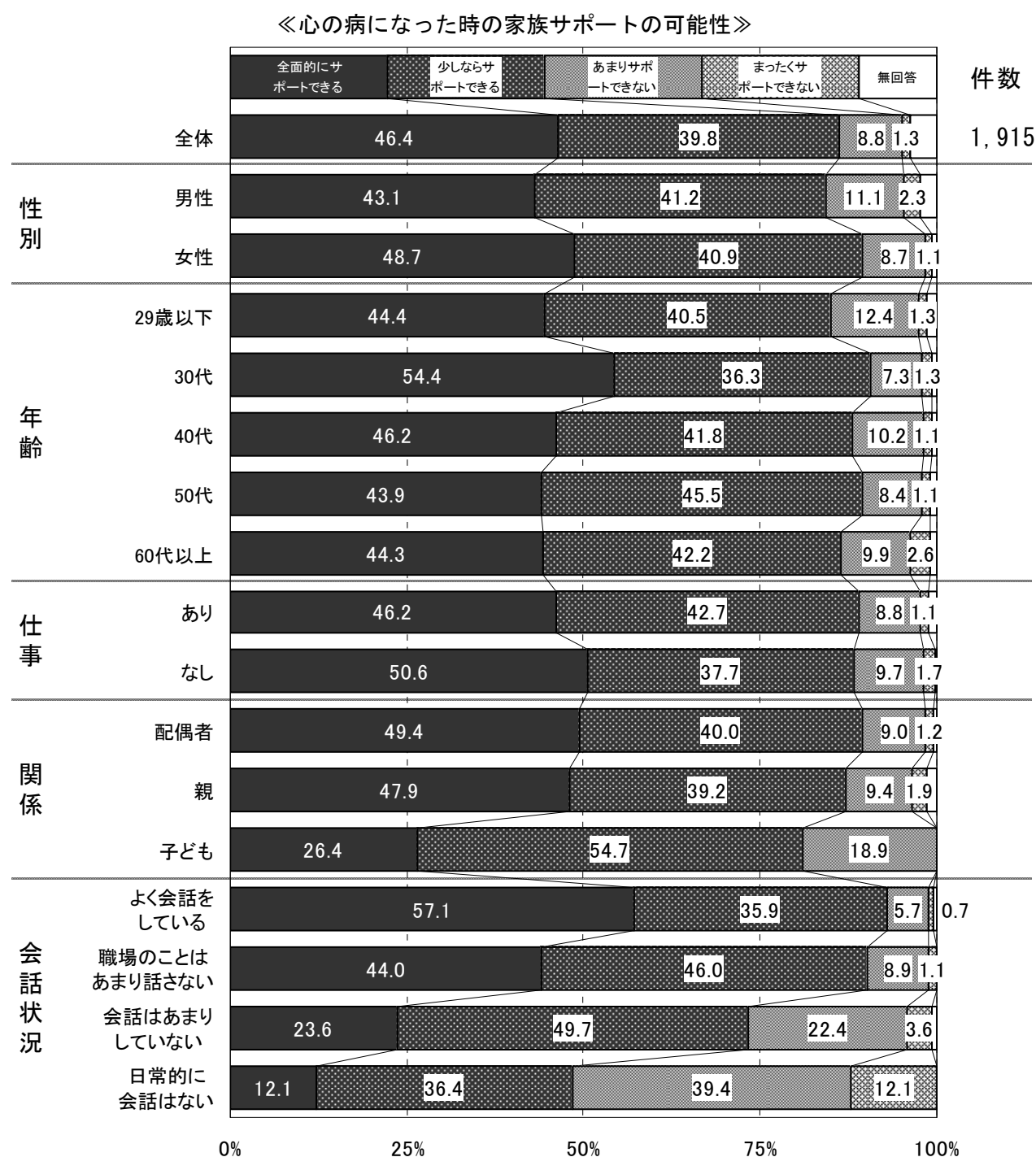
※① 毎日のように、ほとんど1日中ずっとゆううつである。② 何に対しても興味がわからない。③ 食欲が低下、または体重の増減が激しい。④ 毎晩のように、寝付けない、夜中や早朝に目が覚める。⑤ 動作や話し方が遅い、またはイライラしたり、落ち着きが無い。⑥ 疲労感がひどい。また気力がわからない。⑦ 自分に価値が無い、または申し訳ないと感じる。⑧ 仕事や家事に集中したり、決断することができない。⑨ この世から消えてしまいたいと思うことがある。の9項目



(6) 心の病になった時の家族サポート

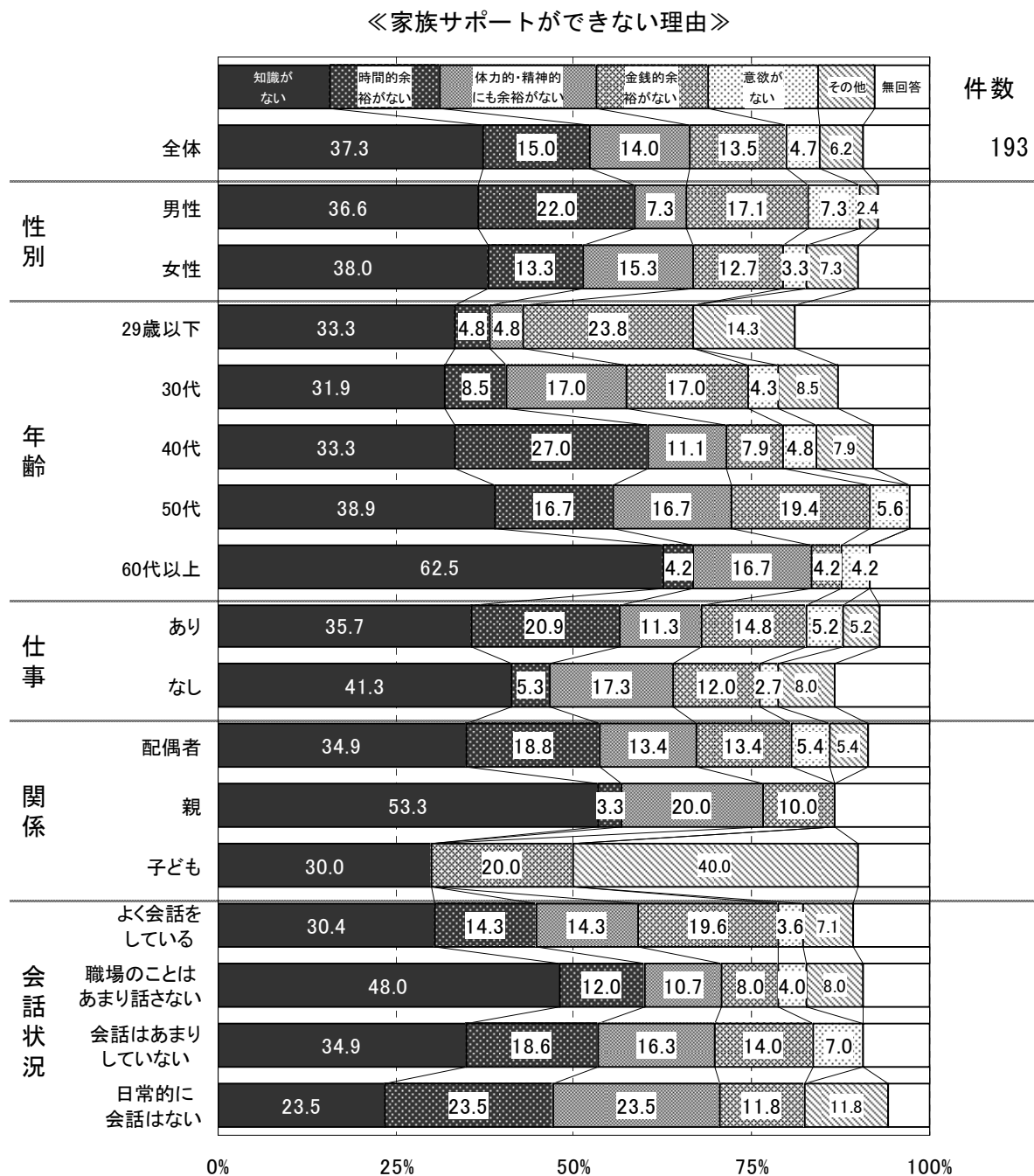
1) 家族サポートの可能性

- 家族サポートの可能性について、最も多いのは「全面的にサポートできる」で46.4%、次いで「少なからサポートできる」39.8%、「あまりサポートできない」8.8%となっている。
- 労働者との関係では、子どもの方が配偶者や親と比べて「全面的にサポートできる」割合が低くなっている。
- 会話状況別にみると、会話の少ないところほど、「全面的にサポートできる」割合が低くなっている。



2) 家族がサポートできない理由

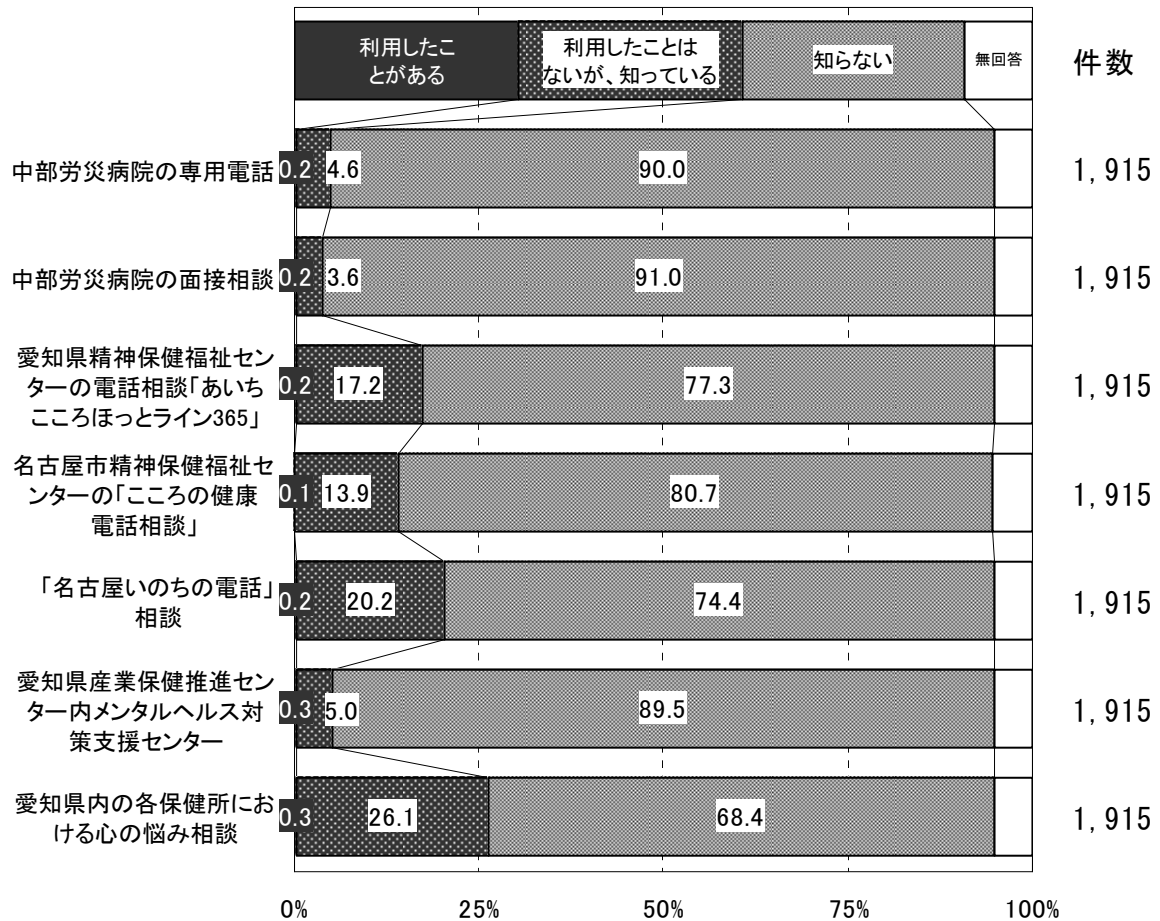
○ 家族がサポートできない理由について最も多いのが「知識がない」で37.3%、次いで「時間的余裕がない」が15.0%、「体力的・精神的にも余裕がない」が14.0%となっている。



(7) 県内で利用可能な事業所外資源の認知度

○ 県内の事業所外資源の認知度については全体的に低く、「愛知県内の各保健所における心の悩み相談」についての認知度が最も高くなっている。

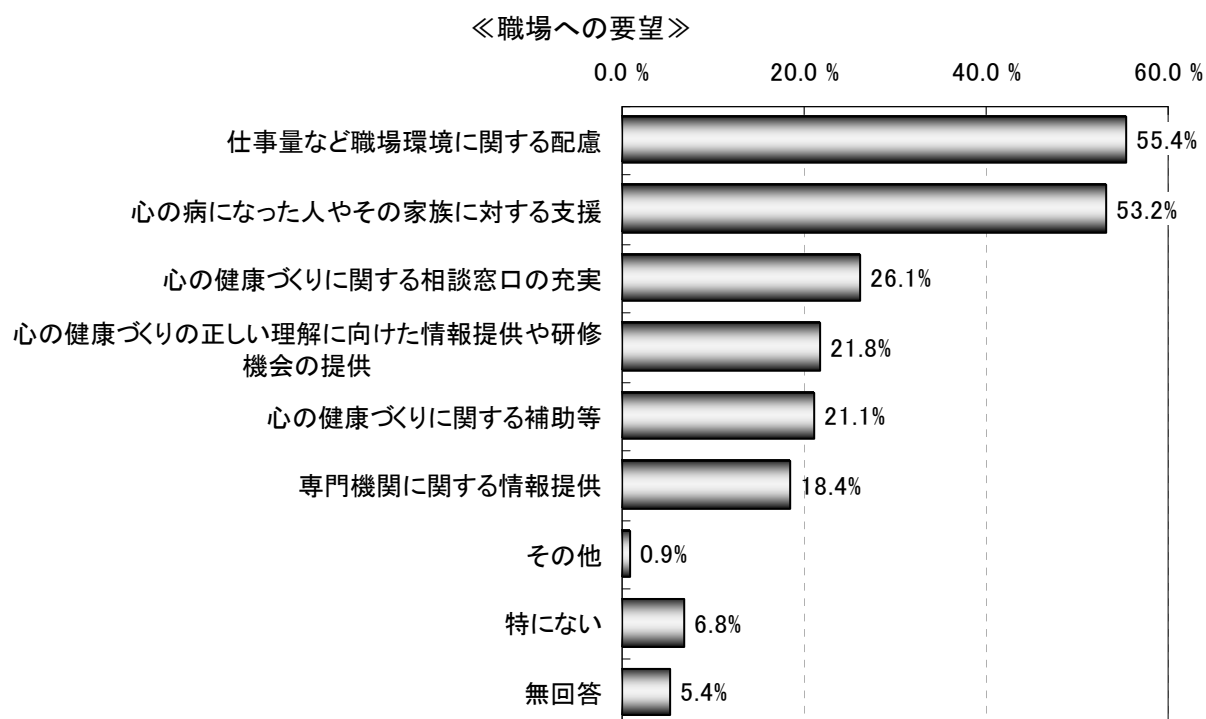
《県内で利用可能な事業所外資源の認知度》



3. 職場・行政への要望

(1) 職場への要望

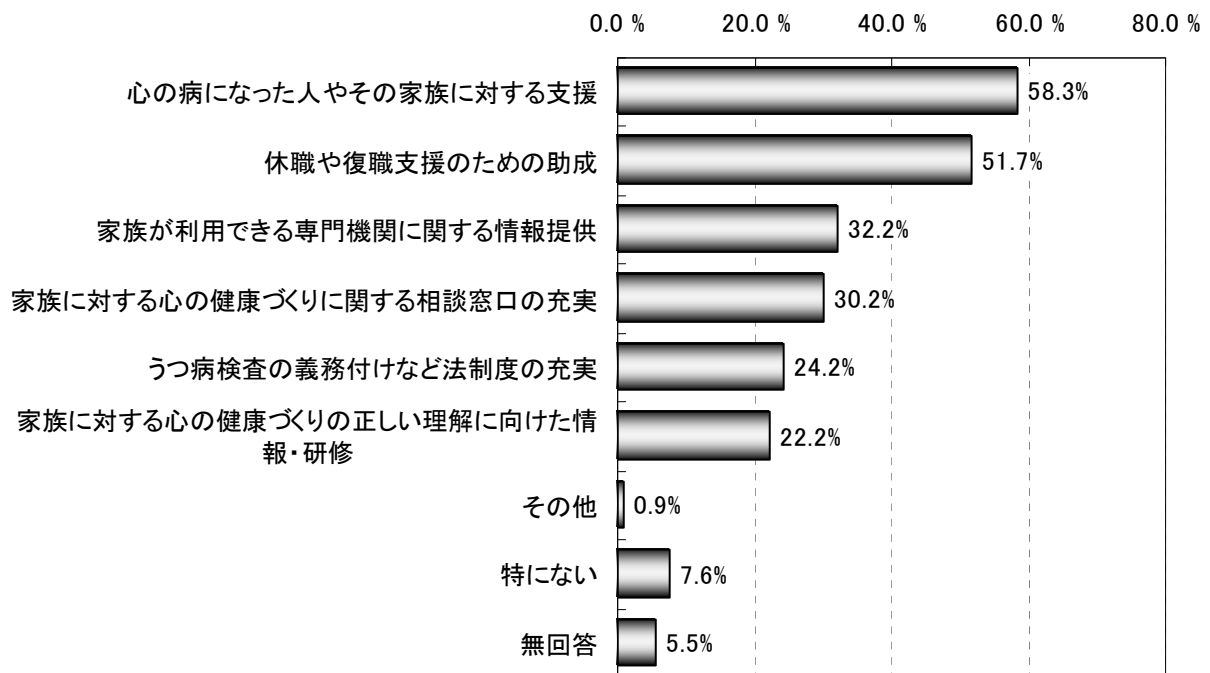
○ 心の健康づくりに関する職場への要望について最も多いのは「仕事量など職場環境に関する配慮」で 55.4%、次いで「心の病になった人やその家族に対する支援」が 53.2%、「心の健康づくりに関する相談窓口の充実」が 26.1%となっている。



(2) 行政への要望

- 心の健康づくりに関する行政の要望について最も多いのは「心の病になった人やその家族に対する支援」で58.3%、次いで「休職や復職支援のための助成」が51.7%、「家族が利用できる専門機関に関する情報提供」が32.2%となっている。
- 事業所側、労働者側、家族側の調査結果を比較してみると、家族側から「心の病になった人やその家族に対する支援」「休職者や復職支援のための助成」「事業外資源に関する情報提供」といった要望の割合が、事業所側や労働者側と比べ高くなっている。

《行政への要望》



《事業所、労働者、家族との比較》

